

日本緩和医療学会会員の皆様へ

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) パンデミックに対する日本緩和医療学会の対応について

まず初めに、新型コロナウイルス(COVID-19)感染症により亡くなられた方とご家族に心よりお悔やみを申し上げます。また、現在治療中の患者・ご家族の皆様方、そして治療・ケアにあたられている会員の皆様にお見舞いを申し上げたく存じます。

内富庸介理事・大会長からすでに連絡がございましたとおり、2020年6月19,20日に予定されておりました緩和・支持・心のケア合同学術大会が8月11,12日に延期となりました。また、当学会が行う様々なセミナーや会議等が中止・延期を止むなくされております。参加を楽しみにされていた方、周到な準備をされていた方には大変大きなご負担とご迷惑をおかけしておりますこと、心よりお詫び申し上げます。

この全世界を巻き込んだ難局にどう対応するか、そして組織と社会をどう変化させていくかが、われわれに課せられた大きな課題であると認識しています。日本緩和医療学会ならびに学会事務局でどのような対応が行われているかについてお伝えさせていただきます。当学会・事務局では以下の対応をとってまいります。

- 1) 学会で行われている委員会等の会議の中止／延期／Web化
- 2) 学会事務局の機能が事務局員の感染によって損なわれないよう、健康管理の徹底、時差出勤ならびにテレワークの奨励
- 3) 学術大会・支部学術大会・セミナーの延期／中止／Web化に向けたシミュレーション

この機会に今まであたりまえに行われてきた不要な慣習を一度見直し、会員が意義を感じられる学術活動を行うことができる学術団体に生まれ変わるチャンスだと考えて、精一杯努力をしていきたいと考えております。会員の皆様にはご不便をおかけすることもあると思いますが、ご理解をいただくとともに、会員の皆さんも変化にご対応いただけるようお願いを申し上げます。

また、この機会に会員の皆様に3つのお願いがございます。1つ目はCOVID-19感染症で生命の危機に状況にある患者さんとそのご家族についてですが、該当する方々は緩和ケアの対象だと考えています。ぜひ目の前の患者さんにご家族様に緩和ケア専門家として何ができるかを考えて日々の診療にあたっていただきたくお願い申し上げます。2つ目は私達が日頃行っているカンファレンスのあり方を見直すことです。もしチームの誰かがCOVID-19感染症に罹患したら、チーム全体が濃厚接触者となり自宅待機をすることとなり、そ

の機能を失う可能性があります。そうなった場合患者さんに大きな不利益が出る可能性があります。そのような事態を避けるため、個人が健康管理に気をつけ、風邪症状や発熱がある場合は出勤を絶対にせず自宅で療養すること、チームや病棟で行われている unnecessary カンファレンスを減らし、最小限にするべきだと考えます。(リスクを最小限にして、かつ分散するためです。可能ならば執務する場所を分けたほうが良いかもしれません) 3 つ目は、できる限り目の前の患者さんやご家族の感染リスクを減らすことです。具体的には、1) unnecessary 外来受診を電話やメールなどの連絡や処方箋の発行で置き換える、2) 緩和ケア病棟の入院面談の簡便化、Web 化、集約化 (地域において複数の緩和ケア病棟を入院面談のために家族が受診したり、患者の受診が必須であったりすることを止める、代わりに地域における患者の適切なトリアージをしたり、Web 面談で代替するなどの仕組みを作る) について検討していただきたいこと、などが挙げられます。最後にこれらの取り組みには、常識にとらわれない若者の力が必要です。ぜひ様々な意見を上司に、代議員に、理事にお聞かせください。また年長者はぜひ若者の意見に耳を傾けてください。

このピンチをチャンスに変えて、われわれはよりしなやかで強い学術団体に变化してまいります。8月の学術大会で皆様にお会いすることを楽しみにしております。

日本緩和医療学会理事長 木澤 義之